

(69) *原始人は 石斧で 獣と あらそった。

(70) 原始人は 石斧で 獣と たたかった。

さて、「たたかう」には相手に意志を持たないもの
がくる用法がある。

(71) 寒さと たたかう。

(72) 貧困と たたかう。

(73) 癌と たたかう。

また、敵が明確に示されない用法もある。

(74) 総選挙を たたかう。

(75) 自民党の候補者と 総選挙を たたかう。

(76) フランスは イギリスと 第二次世界大戦を
たたかった。

(77) フランスは ドイツと 第二次世界大戦を た
たかった。

(75)(76)(77)の「と」は「～といっしょに」の意味になっ
て、相手を表しているとは解し難い。したがって、(77)
は文法的には正しいが、歴史的事実と反するため、不
自然な印象を受ける。一般に「たたかう」がヲ格をとっ
た場合、ヲ格にはたたかひの意味を多少とも含んだ語
句がち、ト格は相手ではなく共同者を示すようであ
る。

(71)~(77)のような用法があるのは、「たたかう」が主体
の行動を表す語だからであろう。これは、「あらそう」
や「きそう」が敵の存在を重視し、主体と敵を同じウエ
イトでみているのと対照的である。

(78) 相手が何者かもわからぬまま たたかった。

(79) *相手が何者かもわからぬまま あらそった。

(80) *相手が何者かもわからぬまま 力を きそった。

4. まとめ

○あらそう

・ヲ格がない場合：

互いに敵より優位にたとうとして緊張状態にある
こと。または、そのために実際に攻撃しあうこと。

・ヲ格がある場合：

ヲ格にたつものを得ることによって、敵より優位
にたとうとすること。

※主体と相手はあらそう意志を持つ。

※主体と相手の力は同等で、常識では力の差があると
考えられる場合は、主体を相手と同レベルとみなす。

○きそう

ヲ格にたつ名詞句の分野で一定以上の力を持つ者
同士が、それを上まわる程度で敵よりも優位にた
とうとすること。

○たたかう。

主体が敵より優位にたとうとして、積極的・具体
的な行動をおこすこと。

<注1> 『三省堂国語辞典第三版』では、

あらそう——①相手に勝とうとする。競争する。

②相手より先に、ものを手に入れようとする。

③けんかする。

きそう——あらそう。負けまいとしてはりあう。

たたかう——(戦う)④敵と打ちあって争う。

⑤戦争をする。⑥勝ち負けを争う。⑦試合・競
技をする。(闘う)相手とせりあって勝とうと
する。

となっている。

<注2> 本稿では(ii)の構文のト格を特に相手とよぶ。

(i)でも、AにとってはBが、BにとってはAが、各
各相手であるともいえるが、これらは(ii)のト格とあ
わせて敵とよぶことにする。

<注3> ただし、この森田氏の説には賛成しかねる。

ヲ格にその分野で力のあるものがプラス評価される
ものがくれば、確かに、きそいあって力を増すのは
よいことである。しかし、たとえば(50)の「軍事力」
のようにマイナスイメージを持つものがヲ格にたつ
場合もあり、そのときは「きそう」をプラス評価の
語ということとはできないだろう。そういう意味での
評価には、ここでとりあげた三語とも中立である
と思う。

言語経歴：1961年1月神奈川県横浜市生 1
歳～神奈川県茅ヶ崎市

かわかす・ほす

河野裕子

1. はじめに

「かわかす」「ほす」は両者とも「対象の水分を取り

除く、つまり乾燥させる」という共通の意味をもつ。
しかし、

(1) ペンキを かわかす。

(2) *ペンキを ほす。

のように両者は区別して使われる。そこで分析を通してこの二語の違いを明らかにしてみる。

2. 分析

2.1. 水分の状態

(1) ペンキを かわかす。

(2) *ペンキを ほす。

(3) 濡れた手を かわかす。

(4) *濡れた手を ほす。

(5) 洗った髪を かわかす。

(6) *洗った髪を ほす。

(7) *柿を かわかす。

(8) 柿を ほす。

(9) *大根を かわかす。

(10) 大根を ほす。

(1)~(6)のようにものに付着している水分を取り除く場合には「かわかす」が使われ、(7)~(10)のようにもの自体の水分——成分としての水分を取り除く場合には「ほす」が使われるようだ。

(11) 蒲団を かわかす。

(12) 蒲団を ほす。

(13) 洗ったシャツを かわかす。

(14) 洗ったシャツを ほす。

ところで、(11)~(14)の場合取り除く水分はものに付着しているにもかかわらず(12)(14)のように「ほす」も使われる。「蒲団」や「シャツ」は「手」「髪」などと違い水分が中にしみ込む。そのようなものには「ほす」も使えそうである。しかし「ペンキ」はどうであろう。やはり「ペンキ」も、ものにしみ込むが「ほす」は使えない。これについては、2.2.で述べることにする。したがって成分としての水分を取り除く場合は「ほす」に限定されるがそれ以外は水分の状態とは無関係といえる。

2.2. 動作

(15) 洗濯物を かわかしている。

(16) 洗濯物を ほしている。

(17) 洗濯物が かわかしてある。

(18) 洗濯物が ほしてある。

(19) 洗濯物を かわかした。

(20) 洗濯物を ほした。

(21) かわかした 洗濯物。

(22) ほした 洗濯物。

洗濯物が濡れているのは(15)(16)、濡れていないのは(17)(19)(21)、濡れている、濡れていないのどちらともとれるのは(18)(20)(22)である。

また(16)は洗濯物を広げつつある状態、つまり水分を取り除くための状態にしつつあることを示している。(17)(18)は洗濯物が単に広がっている状態を示している。

(15)(17)(19)(21)から、「かわかす」の意味はものの水分を取り除くことであることがわかる。

——この意味を静的意味とする。

「ほす」の意味は(16)と(18)(20)(22)にみるように濡れている状態から、ものを広げる、つまり水分を取り除くための状態にすることであり、動作主の働きかけを表している。

——この意味を動的意味とする。

また(18)(20)(22)の濡れていない状態から、「ほす」が静的意味も持つことがわかる。しかし「ほす」の静的意味は動的意味をふまえた上での意味であり、静的意味だけで使うことはできない。だから「ほす」は動作主の働きかけが不可能なものには使われない。

(2) *ペンキを ほす。

(4) *濡れた手を ほす。

(6) *洗った髪を ほす。

これらは前述の例文であるが、「ペンキ」「手」「髪」に対して動作主の働きかけができないから「ほす」は使えないといえそうである。よって、

(23) ペンキを 塗った 板を ほす。

は、板に対して動作主の働きかけが可能のため、「ほす」が用いられる。

2.3. 場所

(24) シャツを 日向で かわかす。

(25) シャツを 日向で ほす。

(26) 靴を 日陰で かわかす。

(27) 靴を 日陰で ほす。

(28) 洗濯物を 屋上で かわかす。

(29) 洗濯物を 屋上で ほす。

(30) *シャツを 日向に かわかす。

(31) シャツを 日向に ほす。

(32) *靴を 日陰に かわかす。

(33) 靴を 日陰に ほす。

(34) *洗濯物を 屋上に かわかす。

(35) 洗濯物を 屋上に ほす。

場所を表すデ格・ニ格をとりあげてみた。「かわかす」「ほす」の両者ともそれを行う場所は選ばないが、「かわかす」はニ格をとりえない。ニ格はものの帰着点

を示すので、動的意味をもたない「かわかす」には用いられないのだろう。

2.4. 手段

- (36) シャツを 日光で かわかす。
- (37) *シャツを 日光で ほす。
- (38) シャツを 風で かわかす。
- (39) *シャツを 風で ほす。
- (40) シャシを 日光にあてて かわかす。
- (41) シャツを 日光にあてて ほす。
- (42) シャツを 風にさらして かわかす。
- (43) シャツを 風にさらして ほす。

(36)~(43)はいずれも自然な乾燥方法であるが「ほす」は手段のテ格を取りえない。しかし(40)~(43)のように手段を表わすと考えられる動詞中止形では「ほす」も使える。この違いは、「ほす」が動的意味・静的意味の両方をもつことや他のさまざまな要因に、関わるものと思われ、現段階では結論をくだせない。

また、

- (8) 柿を ほす。

これは、干柿をつくることを意味する場合つまり静的意味についてのみ考えてみると、成分としての水分を取り除くときは、強い熱を短時間加える方法は「ほす」には不適當のように思われる。そうすることにより、もの自体が変質してしまうのではないだろうか。

以上から「かわかす」に関しては手段に制限がないことがわかるが、「ほす」に関しては一言でいいきことはできない。ここでもさまざまな事柄が関わりあってくるためさらに追求する必要があるが、前述のテ格とテ形の問題とともに、今後の課題としたい。

2.5. 慣用的表現

- (44) 甲羅を ほす。
- (45) 杯を ほす。

(44)(45)は共に水分を取り除く意味から転じた表現と考えられる。しかし水分を取り除くための状態にすること、つまり動的意味とは直接関係ないので、やはり慣用的表現とするべきである。

3. まとめ

●「動詞のもつ意味」

「かわかす」は静的意味をもち動的意味をもたない。「ほす」は静的・動的意味の両方をもつが静的意味だけに用いることはできない。

静的意味とは、ものの水分を取り除くことである。また動的意味とは、ものの水分を取り除くための状態にすることであり、静的意味に先立って行われる。

●「水分の状態と乾燥の手段」

「かわかす」は成分としての水分以外に対して用いられ、乾燥の手段は選ばない。

「ほす」に関しては、成分としての水分を取り除く場合はこれに限定され、自然な乾燥手段を用いなければならないが、成分以外の水分については、今後の課題とする。

●「構文的特徴」

「かわかす」は場所を表す二格と共起しない。

「ほす」は手段を表すテ格と共起しない。

言語経歴：1960年9月大分県大分市生 0～
18歳大分市 18歳～東京都目黒区

はれる・むくむ

内田 眞由美

1. はじめに

「はれる」と「むくむ」は両語とも、人や動物の体の一部や全体がふくらむ現象を表わす動詞である。しかも、これらは正常な現象というより、病的な現象といえる。あるいは病的と言わぬまでも何らかの理由で、一時的に体がふくらむ現象を表わす動詞である。以下、この二語を分析していく。なお「はれる」と「むくむ」については、徳川・宮島1972の分析があるので、随時それを参考にしていく。

2. 分析

2.1. 文型

(1) 寝不足で まぶたが はれる。

(2) 一日立っていたので 足が むくむ。

文型は「はれる」「むくむ」とも同じで、下のような型になる。

Aガ { はれる。
むくむ。 (A:ふくらむ部分)